

令和2年度第2回倉敷市文化振興審議会議事録（要旨）

会議名称	令和2年度第2回倉敷市文化振興審議会	
開催日時	令和2年11月13日(金) 10:00～11:40	
開催場所	倉敷市庁舎7階 701会議室	
出席者 ※敬称略	審議会 委員	井上 計二, 大賀 環子, 大原 あかね, 尾崎 聡, 竹内 京子, 西井 弘人, 馬場 始三
	市職員	文化産業局長, 文化観光部長, 事務局
関係者	関係者	なし
傍聴者	傍聴者	なし
欠席者	審議会 委員	なし
会議次第	1. 開会 2. 議事 (1) 倉敷市第二次文化振興基本計画の構成と計画の方向性 (2) 施策展開 (3) 計画の検証 (4) その他 3. 閉会	

議事要旨

倉敷市第二次文化振興基本計画の策定について

—事務局からの説明—

- ・ 倉敷市第二次文化振興基本計画の構成と計画の方向性
- ・ 施策展開
- ・ 計画の検証

—質疑応答—

- | | |
|-------|---|
| 会 長 | それでは事務局から説明いただきました基本計画案の構成と計画の方向性について、委員の皆様ご意見などございましたらお願いいたします。 |
| 副 会 長 | 以前の時にこの施策体系の目指す方向の文言の修正と言いますかキャッチフレーズと言いますか、委員さんから出た意見をそれぞれ苦心されながら直されていますけど、私が申し上げた、「誰もが文化に親しめるまち」の子どもという3文字が踊るように最初に入れて欲しいというのが反映されていますので、私としてはある程度満足でございます。 |
| 会 長 | ありがとうございました。他にありますでしょうか。 |
| 副 会 長 | 私以外の方の指摘のところで目指す方向ですけれども、「文化活力を目指すまち」というのにはもうひとつ想像的なイメージを加えて欲しいので、「息づく活力豊かなまち」というのには反映されているとはいえないような気がします。
目指す方向の3つ目が「文化を発信するまち」であった訳ですけど、もう少し地域間交流とかそういうイメージを入れて欲しいということで、「発信し世界とつながる」と文言も入っていますのでこれも苦心されて作られたのかなと、私としては、修正としてはおおまかなところで、ある程度満足であります。 |
| 委 員 | 前回参加はさせていただいていないのですが、議事録を読ませていただいたうえで皆様方のご意見ご要望等が、例えば「子ども」「活力」「発信」「つながる」といったようなキーワードも入っているようですし、いいふうになっているのではないかというふうに感じました。 |
| 副 会 長 | もう1点よろしいですか。18ページですね。SDGsのアイコンですけれども、ここの会場だったか他所の会場だったかちょっと私も記憶が定かじゃないのですが、いくらイメージといっても文字を見やすくして欲しいという意見が出まして、その時よりは見やすくなっている感じですね。もう少し印刷がよくなってもっと読みやすくなると、もう少し画数が多い字が見やすくなるかと思えます。 |
| 会 長 | 元々のこの絵と文字の配置の都合上やっぱり字がここまで小さくなるということである程度致し方ないのかなと思うのですが、鮮明さという意味でかなり見やすくなったということで、ありがとうございました。 |
| 委 員 | いろいろな意見を入れていただきながら、ここまで作っていただい |

	<p>たことを非常に感謝いたします。もし可能でしたら、SDGsのゴールの10（人や国の不平等をなくそう）と16（平和と公正をすべての人に）、これはやはり世界に対して倉敷の文化が期することが出来るものではないかというふうに私は思っています。人や国の不平等をなくすとか平和と公正をすべての人にとというのが目指す方向Ⅲの中に入ってくると、より世界につながるというイメージが出来てくるのではないかとは思いますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>前回の審議会でのご意見から、ジェンダーや健康福祉というのは必要だということを改めて協議しまして目指す方向Ⅰの方に入れさせていただいています。また、倉敷市の最上位計画である七次総合計画にも文化の項目で抽出されているゴール4（質の高い教育をみんなに）と、8（働きがいも経済成長も）と、11（住み続けられるまちづくりを）も、それぞれ3つの目指す方向に紐づけています。今おっしゃっていただいたゴール10、16につきましても、検討させていただいてよろしいですか。</p>
委員	<p>もちろん、他の委員の皆様のご意見もいただいてからご調整いただいて。</p>
事務局	<p>どちらかを是非にとしたら、どうでしょうか。</p>
委員	<p>どちらも大事ですけど、例えば倉敷に在住の外国籍の方のこともこう考えていくとゴール10の、この倉敷でみんな暮らしていけるよというふうな…どうかな、ごめんなさいちょっと何とも言えないですけど。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
会長	<p>委員の皆様のご意見はいかがでしょう。19ページの目指す方向Ⅲ「文化を発信し世界とつながるまち」にSDGsのゴール10と16、あるいはどちらかを加えるというご提案でございます。</p>
委員	<p>17ページに大前提としての文化振興を目的とする本計画では、すべてのゴールを目指すことを前提としたうえで、それぞれの目指す方向に主なゴールを設定しますというふうで大前提がございますので、事務局の方で調整していただければと感じました。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございました。他にご意見ございませんでしょうか。文化を発信して世界とつながろうとする活動を通して人や国の不平等をなくしていくですとか、平和と公正というすべての方にひらかれたまちをつくらうということであげていくと、より良いのではないかというご意見が出ております。では、事務局でご検討をお願いしたいと思います。他にご意見ございませんでしょうか。</p>
委員	<p>建築の分野から意見を申し上げます。計画を読みこんでいくと、資源という言葉の中に景観であるとか地場産業、私再々申し上げた職人であるとかが含まれてくるといことがわかるのですが、一目ではわかりにくい。目指す方向と取り組み項目、SDGsがまとめられた19ページの表が見やすいといいますか、今のSDGsを含めて一目でわかるものだと思うのです。</p> <p>そこで、建築であるとかそれを担う様々な職の方々のことが含まれ</p>

	<p>ている、目指す方向Ⅱ「文化が息づく活力豊かなまち」の、取り組み項目3「地域の文化資源を活かした産業の振興」の「産業の振興」の前に「継承」を入れていただきたいと思うのです。やはり継承があつての未来なので。</p> <p>5ページに書いてあります文化の範囲というところで文化芸術基本法を基本としながら、本市の特色ある資源というのはすごく共感を得ると思うので大切にしたいと思います。</p>
会 長	<p>はい、ありがとうございます。19ページの目指す方向Ⅱの取り組み項目3のところを、「地域の文化資源を活かした産業の継承と振興」にですね。ありがとうございます。</p>
委 員	<p>今、お話がございました19ページで、それぞれ目指す方向3つにSDGsのゴールが割り振ってありますね、これをすべてのゴールを目指す前提というお話がございましたので、ゴールをすべて割り振って、目指す方向へ当てはめていただいたら、このように思うのですが。事務局で考えていただくのは面倒でしょうか。</p>
事 務 局	<p>主なものでという考え方で、3つぐらいを抽出させていただいているのですが、いろいろご意見をお伺いしてまた考えたいと思っています。ありがとうございます。</p>
委 員	<p>それからこのバッジですね、どこで求められますか。勉強不足なのですが、もし手近に求められるのであれば、せっかく委員として活動しておりますので付けて市中、いろんな所へ行きたいと、このように思いますがいかがでしょうか。</p>
事 務 局	<p>SDGsのカラフルな虹色のバッジのことですね。確認します。</p>
委 員	<p>よろしくお願いします。</p>
会 長	<p>ご意見ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。</p>
委 員	<p>まずはこの3つのキーワードに関しましては非常に読みやすいといえますか、見やすいキーワードとしてまとまったなというふうに、率直に感じました。</p> <p>2つ目には、私自身がデジタルの世界で活動しているという視点での話になりますが、今後は従来型の文化とデジタルの世界での文化が併設していくような形で、並びながらお互いのリアルとバーチャルな世界の中で、文化というものをどう創造、育成、振興していくかという課題が見えてくるかと思います。まだ地方都市ではそういった課題が顕在化はしていませんが、そういったところからの視座が必要な中で10年というスパンを考えた時に、後半のところ必ず課題として見えてくるかなと思いました。</p> <p>この19ページの取り組み項目を見ておりました時に、その部分がキーワードの中に含まれてくるのが、目指す方向Ⅰの取り組み項目2「文化芸術を担う人材の育成と活動支援」の「人材育成」の中で、デジタル技術を活用した文化芸術を担う人材というものが育成されるのかなというようにところ、目指す方向Ⅱの取り組み項目1「文化財の保存と活用」の中でのデジタル技術の活用及び応用、目指す方向Ⅲ「文化を発信し世界とつながるまち」というところが最もデジタル芸術を活用</p>

	<p>した中での部分になってくるかと思えます。</p> <p>この大きな上段（目指す方向や取り組み項目）の中の課題として考えるのか、それとも内側（具体的な項目）の中でまだ細かなアクションアイテムとして入れるのか、そのあたりの位置付けといいますか方向性というところでお考えをお聞かせいただければと思います。</p>
事務局	<p>今おっしゃっていただいた新しい発信の仕方や SNS を使ったといった具体的な項目として入れさせてはいただいているのですが、先ほどいただいた意見と同じで、建築とかデジタルの人材育成など、大きい取り組み項目の言葉では見えていないということですね。情報発信のあたりでは新しい発信の方法等で、もう少し追加する言葉が出来るかと思っておりますので、そのあたり事務局でまた検討させて下さい。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。それではこれまでの委員の皆様からの貴重なご意見を元に事務局で修正をお願いしたいと思います。再度お知らせをしていただくということでもよろしいでしょうか。それでは次に第4章施策展開につきましてご意見をお願いいたします。</p>
副会長	<p>ご指摘された「継承」という言葉は、34ページでの具体的な項目でも加えるということでもよろしいでしょうか。</p>
会長	<p>ありがとうございます。34ページ取り組み項目3の具体的な項目「②産業の振興」にも、「産業の継承と振興」というふうに加えていただけたらという。</p>
事務局	<p>加えさせていただくように検討します。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。お願いいたします。</p>
委員	<p>1つお願いがあります。22ページ子どもの文化、学校教育のところになるのかもしれないのですが、例えばなんですけれども、「小中学校へ芸術家を派遣し」とあるところ、職人の体験を入れるのはいかがでしょうか。現在、建築職人の方、倉敷も危機的な状況にあることを踏まえて、漆喰であるとか畳、和紙それぞれ職人の体験など、私は直接子どもに触れさせてあげたいのです。それで100人の中でひとりでも興味を持ってもらえたらいいと思っています。一番効果的なのは工業系の高校生などに、すごく極端な例で言うと漆喰の実習をする、ですとか。それが不可能であっても、体験するとか見学するとか、そういうことをしていかないと、本当に倉敷から職人がいなくなる。職人がいなくなるのに、景観を守るというのはもう無理なんですね。本当に今しないと、もう遅いと、私は日々思っていますので、難しいかもしれないですけど、これから先はそういうことも踏まえて計画していただきたいと思います。</p>
会長	<p>22ページですね。</p>
委員	<p>具体的な内容なので柔軟だと思うのですが、この中にちょっとでも目に見える形であると良いかなと思います。例えば「子どもたちに日本の伝統文化の体験の機会を提供します」と書くと、先ほどの話と一緒に、読み込めば「文化」の中に含まれているのですが、1か所でも具体的に触れていただけたらと思うのですが。</p>
会長	<p>確かに小学生の時に素晴らしい演奏家が来られてというのはかなり</p>

	<p>そのお子さんが進路を決めるのに非常に影響している場合がありますよね。かなりインパクトになりますので。</p> <p>例えば具体的な項目3「学校教育における文化芸術活動の推進」の内容について、「小中学校へ芸術家を派遣し」のところに「職人」を加えるような。</p>
委員	<p>全て読み込めば入っているのですが、「日本の伝統文化の体験の機会を提供します」に入っているじゃないと言われたらそうなのだけれども、やはりこれ、前段階が無い方が読まれるとどうでしょうか。「文化」といわれたら、芸術とか音楽とか絵とかアートとか、そういうふうに捉える方の方がほとんどではないかなと思います。倉敷には特色ある資源があるというのを入れられているので、もう一步、具体的などこにも表れていただければうれしいなと思います。難しいかもしれないですけどよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>今のご発言のとおり、これを見た時に、書いているのは書いているのですが、目に見えて出てきてない。大きなところで言うと民芸などで、じゃあ民芸とはどういったものですかとか、美術工芸、工芸品であるとかです。倉敷の場合、和紙、張り子、陶芸など携わっている方がたくさんいらっしゃるって、そういった方々の技術を伝承して、そういったものが出るというところにまでなればいいのですが。今までのこの第一次の基本計画の中で市の中の組織として計画に参画している部署に加えて、第二次の計画では広がった形になっているのですが、今気づいて申し訳ないのですが、多様性だとか日本遺産の視点だけしかなかった部分があるので、まちづくりであれば市の中にまちづくり推進というのを進めている課がございまして、そういったところにこの計画の中に参画してもらおうというのも必要だと思います。また、大学と連携という市の中では中心的になるのが企画の分野になるのですが、企画の方に入ってください必要もありますし、市が持っている大学となると市立短大ですが、そこの中に地元の繊維産業と連携したものづくりというのがありますし、文化ですから本当に幅が広い、そういったところ市の中でも計画を見せて参画していく形に変えていくようなこともしていけないといけないと思っています。</p> <p>最初にご指摘をいただいた5ページのところに文化の範囲に、「本市の特色ある資源ということで町並み景観、地場産業、大学なども計画に含めます」と書いているのですが、参考で示しているのが、いわゆる文化、芸術というようなどころだけを見せてしまっている。町並みとか地場産業、大学はどこまで書けるのかというのがありますが、市が持っていなくても市内には大学がたくさんある、とここで見せるのは可能ですから、先ほど言った美術工芸であるとか民芸も含めて、本市の特色ある資源に入れ込むような工夫はしていきたいと思います。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>同じく22ページの学校教育における文化芸術活動の推進というところに関する意見といいますか見解なのですが、前回の時にも少しご指摘させていただいたのですが、小中校生に対しての文化芸術の触れ合う機会というのは、こういった枠組みを通じてうまくアプローチ出来ているかと思うのですが、高校生になるといろいろな制約があり、そ</p>

	<p>この間での断絶がある，連続性がちょっと無いかなというところがあるところ個人的には課題に思っております。では，教育，部活動等で忙しい高校の教育の中で，どうやって文化芸術に触れ合う時間を作っていくのかという現実的な大きな問題には，例えばデジタル技術等により時間や距離の制約に捉われない形で，文化芸術活動の推進につながっていくような施策があると，小中高と倉敷の文化芸術に触れた市民が育って行って，その延長線上に大人がいる形になるかと。なにかしらのアプローチの工夫があってもいいのかなと思いました。</p>
会 事 務 局	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか。</p> <p>高校生については，流域市町の高校生達による音楽祭や絵画展を通して交流していきますというところは書かせていただいておりますが，今おっしゃっていただいたように，学校に出向いてだとか，今のところ小中学校だけだったと思いますので，そのあたりはまだ弱いのかもしれないのですが，市内の芸術系の大学では，例えばイベントのオープニングで，美術と音楽の連携をしていただいているとお伺いしたことがあり，会長の方から出来れば院展のオープニングのことをおっしゃっていただければイメージが広がるかと思ったりしています。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。38ページの下のところ，「ウェルカムコンサート」の説明がございまして，倉敷市立美術館で開催されています「春の院展倉敷展」などの，年間に何回か特別展がございすけれども，開会式の前にウェルカムコンサートでお客様を音楽でお迎えして盛り上げていくということを数年前から提携して行っております。音楽を学ぶ大学生なのですが，元々美術にも興味がある学生も多くございまして，そしてこのウェルカムコンサートの最後には近隣の小学生ですとか幼稚園保育園の園児の方の1クラス分の数十人の方に来ていただいて，会場で最後に合唱，歌を歌うといったことも行っております。そこで参加意識が非常に生まれておりますし，美術と音楽と両方に関わる両方が楽しめるまちなのだ，というそういう誇りを持つお子さんが増えていくような印象を持っております。今おっしゃっていただきました小中学校ということに限定しているのは私の勝手な想像ですが，倉敷市立の高校が少ないのでどうしても小中学校がメインになっているということではないかなと思ひまして，当然高校生も倉敷市で育てていった小学生中学生が高校生になって外れるということではなく，更にこういう活動に参加するということは当然大事なことだと思いますし，そのあたりを文言の方にも入れていただけると良いのではないかなと思ひます。</p>
委 員	<p>高校に関しては例えばもう既に，流域との連携が書いてあるので岡山県の県教委との連携ということを一つつ入れれば県立の高校との連携というのはすぐに出来ると思ひます。そのあたりはうちの自治体だけじゃなくどう外に広がるかというところを考えていけば，市内にある県立高校ともまた県教委だけじゃなく私立高校ともやっていけると思ひますし，逆に県北からこちらの市にある県立高校に来ている子達にくらしき文化を体験していただくというのは非常に貴重な意味のあることだと思います。今おっしゃったようにやはり様々な高校との連携は入れていただきたいと思ひます。</p>

先ほどありましたご指摘で、私は目指す方向Ⅱに小中学生が無いことが逆に気になっていました。そもそも伝統産業の振興ということになった瞬間に、対象が大人達になったなと思いました。だからそれを目指す方向Ⅰのところの子どもたちのところで伝統産業というのを入れられるのもいいですし、目指す方向Ⅱのところのそういった振興のところ、やはり子どもたち、次の世代の育成というのを入れていただくのもいいのかなとは少し思っておりました。

また、目指す方向Ⅰの芸術のところでは指標にするのは非常に難しいですけど、演劇とか音楽とかの多様性、どれだけ多様なものを市民の方達に提供出来たかというのがなんらかの指標で出てくると、倉敷の文化がついて、そこで多様になってくると、テクノロジーを使ったアート表現など、そういったものも入ってくるのかなと思いつながりながらお話を聞いていました。ジャストアイデアなので皆様でご検討下さい。

会長 はい、ありがとうございます。目指す方向Ⅱのところの例えば32ページの取り組み項目2の「①地域に根ざした文化活動の継承と活用」、ここに若い世代の方を含む内容にすべきですね。

委員 取り組み項目1の「文化財の保存と活用」というところで技術の伝承というようなイメージで次世代の育成というのを少し積極的に入れていくのもいいのかなと思いつながりながらお話を伺いました。

委員 目指す方向のⅠⅡⅢの中で、継承の中に含まれているところを、子どもを対象としたところはまとめて目指す方向Ⅰに書かれているので、子どもをターゲットにした継承は目指す方向Ⅰで良いと思っています。目指す方向Ⅱになると、その子どもが継承していったうえでの、やはり生活としての職人、最初におっしゃっていた大人がターゲットでいいのかなと思っています。分けることではなくて本来は、生まれてからずっと継承していくという。ずっと切れ目があってはいけないのですが、ここの中ではいいのかなと思いました。

例えば、地域に根ざした文化活動の継承と活用の中に「子どもへの」というのが含まれているのだなという、私も最初に申し上げた、どこに何を詳しく書くかというのは読み込めば全部含まれている、市の文章というのは、順番に最初から全部読むと含まれていて納得するけれども、一部だけを見られたら、う～んと思うところがあるところが、この度ご指摘にも出ていると思います。これを市民の方が見られた時に、どこを開いてみてもなんとなく感じられる方が親切で、これを全部最初から最後まで読む人は、なかなかいないと言っていいです。折角されている人には申し訳ないですけども、やはり折角作るのであるから全部読まない方にでもぱっとわかるような、計画の一部を抜き出してパンフレット等にされると思うので、その時にはわかりやすい、ごちゃごちゃしてそうだけれどもいろんなことが含まれている方が、市民が手に取った時にはいいかなという意味で、先ほどのご意見もなるほどと思いました。

会長 整合性があるって全体を見渡すと抜けも重なりもないというのが本当は理想なんですけれども、確かにぱっと見られる方がほとんどでしょうから、重なりがあってもいいのかなというようなことですね。

副 会 長	よろしいですか、すぐに解決はしない問題だと思うのですけれども、僕の専門でもあるのですが職人の技術をどこに位置付けるかという学問上の問題があると思います。要するに、純粋芸術があって商業芸術があって民芸まで射程に入るかどうか、それに芸術性をどれくらい見出すか、学問的な問題ですけれども、職人の技術が表になかなか文字としてあがってきにくい。どこに位置づけるかですよね、どう評価して。そういう学問的な問題はあると思います。上にあがりにくいのは。
委 員	23ページの取り組み項目2「文化芸術を担う人材の育成と活動支援」は、具体的な項目がひとつ「文化技術を担う人材の育成・支援」となっており、これだけよくまとめておられると感心しているのですが、ここだけ1行でなんかちょっと寂しいような気もするんですよね。
事 務 局	確かにご指摘していただきましたとおり、他の方向性案は数々のいくつかの項目をあげてここは、取り組み項目2がきて具体的な項目が1項目だけというご指摘をいただきました。 事務局の中で見直しをして、検討させていただきます。
委 員	よろしくお願ひします。
副 会 長	別のページなのですが、36ページ姉妹都市のところ、名前を出していいものか問題がなければ、名前くらいあげてもいいのかなと思うのですが。サンクトペルテンがあってカンザスシティがあってクライストチャーチがあって、姉妹都市というと、70代の方はサンクトペルテンが圧倒的で、60代の我々はカンザスシティとクライストチャーチだなど、友好都市として鎮江もありますけれど、他のページを見たら、賞にはこんなものがあるとか例を書いていますので、姉妹・友好都市にはこんなものがあるというぐらひは入れてあげてもいいのかなと思ひました。また、ホームページを見たのですが、姉妹・友好都市となっている。姉妹都市、友好都市での表現が一方ではあるのですがどれが正しいのでしょうか。
事 務 局	姉妹都市は、先ほどおっしゃっていただいたサンクトペルテン、カンザス、クライストチャーチが姉妹都市で、友好都市が鎮江市になります。表記の仕方としては姉妹・友好都市で、セットで4都市ありますというようなことを国際課の方は表現しているのですが、あえてここは分けて書いているところを統一し、修正させていただきます。また、下に注釈をつけて、その説明や国の名称を入れさせていただくことは出来るかなとは思っております。
副 会 長	そうですね、倉敷藤花戦みたいなのは注釈入れているので。姉妹都市さんの名前も入れてあげればいいのかなど。
事 務 局	入れさせていただくということで。
委 員	勉強不足で教えていただきたいのですが、例えば児島のジーンズとか豊縁なんかをパリとかで発信なさっていますよね。ああいったものは、目指す方向Ⅲの項目のどこに入ってくるのか、姉妹都市とかのところか、姉妹都市でないがそういったところも含めて海外ということでしょうか。
事 務 局	数字をとる指標の中にはシティセールスとか入ってきているのです

		が、今おっしゃっていただいたパリへの出店とかとのセールスが、連携の課としてあげていないということでしょうか。	
		40ページの具体的な項目①に「国内外へのくらしき文化の発信」とありますから、このところに項目を増やすような形で検討してみます。	
会	長	22ページに「親子で楽しめるクラシックや演劇」というところがございすが「クラシック」の後、「音楽」をつけていただけたらと思います。26ページの書き方に揃えていただけたらと思います。	
事	務	局長	承知しました。ありがとうございます。
副	会	長	33, 34ページですね、伝建地区がありますよね。その文言がちょっと出てもいいのかなと思うのですが、説明のところであれはどういう構成になっているのですかね。
委	員		「伝統的建造物群保存地区」と「伝統美観保存地区」ですね。
副	会	長	どこかで伝統的建造物保存地区の文字を枠外にでも出して。
事	務	局	今おっしゃっていただいた伝建のその言葉が入ってくれば注釈ということでその注釈を枠外に入れることは出来るかなと思うのですが、記載がないことは注釈にしにくいので、もし入れるのであれば記載して注釈を入れるということですね。
委	員		非常にこれ面白いことで、美観地区という言葉は今法的にないんですよ。全国的にこれが残っているというのは、倉敷は本当に稀なことで、東大の西村先生もすごく驚かされていたのですが、美観地区って言った方が一般的にはすごくわかりやすいのじゃないかな。それが一人歩きしているっていうのが、逆にそれが見越して文化と思っているのですが、そこに付け加えると難しくなるかな。今先生に言われて、私もいつも伝統的建造物のエリア地図を携帯に入れているのですが、これはこれでこれはこうだと説明するのですが、説明が非常に難しく美観地区と言った方が、通称なのではないかなと思います。
副	会	長	文化財保護審の委員の間でどうなっているか改めて聞かれるので、難しいですね。ただあれは日本有数でしょう。あの広さであの保存状態というのは、伝建地区ってたくさんありますけれども全然レベルが違う。
委	員		歴史が長いですし。触れている場所があってもいいかもしれませんね。
事	務	局	美観地区として注釈を入れて、保存地区の説明ですね。
委	員		それはいいかもしれません。それを逆にそこを利用できるようにお願いします。
副	会	長	よそに行ったら、ちょっとしたら抜けてしまっただけっていったような、どこまで歩いてもああいうのが続くというのは倉敷とあといくつかがぐらいで、ものすごい見ものですね。
委	員		誇れるものですね。
会	長		ありがとうございます。

2点よろしいでしょうか。ひとつは23, 24ページの文化芸術を担う人材の育成と活動支援というところでの取り組みの言葉で、こちらもやはり広く若手芸術家というものの中に、メディアアーティストであったりとかデジタル技術を活用した文化を創造していくような若い担い手、このような方々も含まれていたりするかとは思いますが、今、日本ではデジタル庁が創設され、ソサエティ5.0とか、そういったバズワードが広がっているような意味での、デジタルによる様々な社会基盤とかサービスがより先鋭化してきております。そして今、伝建地区のお話がございましたけれども、私も文化財保護課と連携しているので、いろいろとあそこにある文化財等も頭に入っているのですが、やはりすばらしい景観が残されている一方で、そこに新たな何かを建設し、加えるというのが難しいという制約がある中、新しい魅力というのはどう加えていくのか。そこに、デジタル技術を活用した伝建地区、美観地区の価値、今これからの新しい価値というものをどう生み出していくかという可能性があるかとは思っております。

文化芸術を担う人材の育成と活動支援という中に、リアルの伝建地区の魅力を後押ししつつ、更にそれをバーチャルの世界でデジタル技術を使って上乘せしていくような若手のメディアアーティスト等を育成していくような取り組みが、価値としてイメージ的にあるのだとしたら、美観地区というリアルの世界では建築物などをそのまま保存しながら、デジタル技術を使って様々な仮想的な価値を生み出していく可能性があるので、そういったものを支援していくアピールがひとつあってもいいのかなと考えました。ただ今のまま、項目の中に入った中で育成していくというようなやり方もあるかと思っておりますのでご検討下さい。これが1点。

2点目が、39, 40ページを目指す方向Ⅲ「文化を発信し世界とつながるまち」、この発信というところでSNSとかホームページとかフェイスブックというような例があります。こういった部分と言うのは実は、世代ごとに使っているメディアが変わっていきまします。現状で今の大学生の1, 2年生や高校生は、たぶんフェイスブックは見てない、フェイスブックも高齢化といいますか、利用する世代が上の方に上がっていています。そういうところで、どうやって有効に情報を発信していけばいいのか、ここの中で見ているのはあくまで情報の発信で発信者がどのメディアを使うかという視点で書かれていると思います。しかし、より情報を拡散させるひとつのやり方としては、情報発信する人が参加する参加型のメディアイベントのようなものを上手にやっていくやり方なのだと思います。例えばひとつの例として、最近広島では、原爆犠牲者を追悼する意味でオンライン灯籠流しをしています。30代のクリエイターの方が中心になって、いろいろとNGO的になのかボランティアベースなのかわからないのですが、やられてらっしゃる取り組みです。今のオンラインでデジタル的に、ボーダーレスで参加するような形で、新たな文化として根づいてきているように思います。倉敷の中でもフェイスブックやホームページに載せて、こんなのやってますよ、ではなく、参加するような枠組みをなんらかの形で設けることによって、その人たちが自ら言われるまでもなく周りの人たちに拡散していくような新たな情報の発信をする為に、何か仕掛けていかな

		いといけない、何かの枠組みがなければいけないのかなと思っておりますので、また何かいい方向づけといいますか目標が立てられるようでありましたらご検討いただけたらと思います。
会 委 員	長	ありがとうございます。フェイスブックの高齢化は常々感じておりますけれども、どうなのでしょう、ツイッターやインスタなど。
	員	基本計画の見直しをされている中で、10年間でどういったメディアがというのは、やはりすたりもございますし難しいと思います。基本戦略として、ホームページそれから今の時点での主流なSNSというのはわかりやすい指標として使いやすいという意味ではよろしいかと思えます。ただそれに限定することなくそのときどきのメディアを使う人が、その使うメディアで自ら発信していくというように上手に仕掛けていける情報発信のあり方をとらないと、特定のメディアのその伸び率を見るだけで計っているようでは、一部のユーザー層のみに目がいってしまうということになるかもしれません。若い人を対象にどのように情報を拡散していくかという戦略をとるうえで、例えば本当にこれは例え話で申し訳ないですけれども、倉敷春宵あかりといったようなイベントの中でデジタル的に何か参加するような枠組みを設けることによって、デジタルで参加した人達が自ら、倉敷春宵あかりに参加したんだというふうに周りに拡散していく、それは我々がフェイスブックで拡散してねとかツイッターで拡散してねじゃなくて、その担い手である情報のそれぞれの個の発信者の担い手である人達が自分達のメディアで発信していける、こういったような形で参加型の仕組みを用意してあげることが、これからの若い人たち向けには良い情報発信の仕方なのではないかなというふうに感じております。
会 委 員	長	ありがとうございます。ご自身の体験を自然発生的に、こんなにいいイベントに参加してきたのよというのを知らせていただけるといいます。
	員	格好で言うとコト消費に近い話になるでしょうか。その為にはデジタルの倉敷の文化、芸術こういったものが、デジタルとの親和性という中で発信しやすいという形になりますのでそういったチャンス、情報発信しやすいかたちでの文化、芸術の提供、着手というのも計画の中にトライアル的にあってもいいのではないのかなと思えました。ご検討いただければ幸いです。
会 委 員	長	ありがとうございます。4章につきましてはよろしいでしょうか。では5章の検証につきましてご意見ございましたらお願いします。
	員	お伺いしたいのですが、担い手が少なくなっている現状で例えば、その担い手の数のような、どれだけ育ったか、そういったものを入れるのはナンセンスでしょうか。育った数の指標というか、何をもちょうかというのは非常に難しいのですが、でも担い手がいなければ文化は継続できない、そこに我々は危機感を持つべき、そうした時に、数値で表すことについてはいかがでしょうか。
委 員	員	数として出てきたら危機感が本当にあると思うので、非常にそれは面白いことだと思うのですが、どうやって出すのでしょうかと思うし、後は、何の工種をそこに含むかということから洗っていかないといけないのが・・・新しいことだと思うのでやっていくということが必要な

		時期だとは思っています。
委 員	員	自称、他称とかいろいろあるのですか。
委 員	員	延べで人数をとというのはもの凄くハードルが高いと思います。
委 員	員	今回は難しくても我々も課題としてそういったのをつくっていくのはいいかもしれません。
委 員	員	と言うのはたぶん、今まで目にしないというか表面上に現れてこなかった部分で、それが難しかったとしても何かの目に見える数というのが出来ると、それはとてもアピールになると思います。
事 務 局	局	今、行政側もそうですし、実際にそういった職人さんをされている方の方で課題として、いかに次に引き継いでいくかというところを皆さん思われていると思うのですが、それを数で、というところは我々も何らかの形で届出をいただき確認という形のものがないので、把握は出来ない、難しいと思うのです。新しく自分が生業として業務を始めましたよと言う場合は創業をしたという分野の方から数は拾えないことはないのですが、たぶんそれが全てではないと思います。また、今されている方が次の世代に引き継ぎましたよというような数を把握しようとする、そういった人達の集まり、ネットワーク組織があつて、その中での数の把握となるかと思えます。そのひとつとして「倉敷匠の会」というのが立ち上がっていて50数人ぐらいの数が集まっているものがあり、それが全てではないですけども、そういった中で拾えるようなことが出来ればいいのですが、なかなか難しいところですね。
委 員	員	特に職人氣質になればなるほど、そういう組織に入りたくないという方がいらっしゃると思いますので、なかなか難しいけれども、何かあるとすごく面白いなと思いました。
事 務 局	局	今、キャリア教育というような分野のカリキュラムを入れるというところが、なかなか進まない中で、キャリア教育を産業サイドの方から働きかけることを考えております。地元へ目を向けていただく、地元で目を向けたことによって地元の就職につなげよう、という思いの中で、産業サイドの方から小中高校へと働きかけ、今年度からキャリア教育の授業を始めたところでございます。いわゆる仕事だけではなく、外に出てどこかで働くではなく、技術を身につけていわゆる職人として、というようなところにも中学生、高校生の目が向くようなことを授業の中で出せればいいかなと思います。
委 員	員	すごく余談ごとで申し訳ないのですが、10数年前事務所を立ち上げてしばらくの時に建築家になりたいという中学生の職場体験を受け入れました。その当時のことで、またそこから変わっているかとは思いますが、市立の中学校の先生から伺った話では、ほとんどの中学生が職場体験をしたいのがコンビニだったというのを先生から聞いてショックを受けました。コンビニで働いている方が駄目だとも私は思わないです。すばらしい仕事だと思うのですが、身近な仕事なのだろうというのに凄く衝撃を受けて、私だったら例えば税務署だとか到底自分には行けないだろうけども、せっかくだから自分が出来ないような体験をしたいと思うのになあと。また、ヨーロッパ諸国ではわりと早くから職

人になるという道を選ぶ子どもが多いとよく聞いています。例えばお肉職人とか、職人というのは華やかなものばかりではないのだけれども、親の仕事を継ぐというのも凄く早くから意識しているということを知りました。日本の学生の方っていうのは聞いていても高校になっても何をしたいのかわからないという人がどんどん増えていっているという、なんとなく大学には行くというところが増えてるのが、少子化のうえにそれだと、ちょっともどかしいところがあるので、おしゃっているように、ここ10年でしていただいたら、もっと幅が広く選択肢を早くに子どもが意識してくるといいなと思っております。すいません、余談ごとで、申し訳ないです。

会長 ドイツなんかは、午前中は学校で勉強して、午後からそれぞれ進みたいところに勉強に行く。

委員 それは何年生からのお話ですか。

会長 小学校高学年からだと思うのですが、それはもうびっくりしました。音楽をやる人は午後からはレッスンというスケジュールですね、それぐらい大胆なことをして行って文化の継承を行っているのかなあと思ったりしますけれども、そこまではなかなかいけないでしょうけれども、例えば先ほどの話にありましたように産業界の方から働きかけていただくというのはすごく大きな動きになるのではないのかなと思いますね。教育界の方からいくと、それ以前にやらないといけないことが出来ていないので、という話にどうしてもなってしまう。でも本当にそれぞれのお子さんの幸せがどうなのかっていうのを本当にこれからは考えないといけない時期です、社会としてもそうですね。

はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。

長時間に渡りましてありがとうございました。それでは、本日の議題につきまして終了させていただきたいと思っております。それでは事務局から連絡事項等お願いします。